

2020年12月期 通期 決算補足説明資料

2021年2月12日
Nexus Bank株式会社
(JASDAQグロース 証券コード：4764)



1	2020年12月期の概況	… P3
2	2020年12月期の事業状況	… P6
3	セグメント別の事業状況	… P12
4	2021年12月期の業績予想	… P19

1. 2020年12月期の概況

2020年12月期の概況

- ✓ 大型M&Aにより、**2,000億円超の資産規模**を有するFintechグループに転換
(株式交換によりJトラストカード・JT親愛貯蓄銀行をグループ化)
- ✓ 5カ年度ぶりとなる**営業利益と経常利益の黒字化**
(連結効果により営業収益：38.7億円、営業利益：3.7億円、経常利益：3.5億円)
- ✓ Nexus Bankグループ始動に向けた**経営基盤の強化**
(営業収益：200億円、経常利益：30億円、当期純利益：20億円の見込み)

大型M&Aを経て “**新たなFintechグループ**” としてスタート！

2020年12月期のトピックス

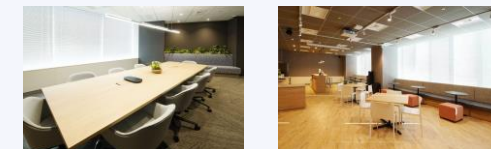
大型M&A の実施

- 「経営基盤の安定化」と「さらなる事業領域の拡大」をはかるべく、Jトラストカード株式会社と**株式交換契約を締結**（2020年9月23日）
- 2020年11月より**Jトラストカード**を子会社化するとともに、**JT親愛貯蓄銀行**を孫会社化（Jトラストカードは2021年5月1日に商号変更予定）



商号・本店 移転

- 今後のグローバル展開を見据えたFintech事業の成長と確立を目指し、**商号をNexus Bank株式会社へ変更**
- Nexus Bankグループ会社間の連携強化によるシナジー効果の発揮を目的として**本社を移転**（東京都港区赤坂）



事業体制 の見直し

- 経営管理の最適化をはかるべく、セグメントを「**Fintech事業**」、「**ITソリューション事業**」、「**その他**」の3つに区分
- 事業体制に合わせ**勘定科目の一部変更**を実施
（変更前：「売上高・売上原価・売上総利益」／変更後：「営業収益・営業費用・営業総利益」）

2. 2020年12月期の事業状況

グループ全体

営業収益 : **38.7** 億円 (前期比 : +**368%**)

営業利益 : **3.7** 億円 (前期比 : 黒字化)

経常利益 : **3.5** 億円 (前期比 : 黒字化)

- 大型M&Aを実施し、2020年11月よりJTトラストカードとJT親愛貯蓄銀行をグループ化
- 2か月間（11月-12月）の連結効果により大幅な増収・増益を達成

Fintech事業

営業収益

36.0 億円

(前期比 : +**558%**)

営業利益

6.2 億円

(前期比 : 黒字化)

JT親愛貯蓄銀行（Fintech-海外エリア）の連結効果により増収・増益

ITソリューション事業

営業収益

2.2 億円

(前期比 : Δ **2%**)

営業利益

0.4 億円

(前期比 : Δ **28%**)

減収・減益ながらも中期的には堅調に推移

その他

営業収益

0.5 億円

(前期比 : Δ **5%**)

営業利益

0.4 億円

(前期比 : Δ **6%**)

賃貸不動産の賃料見直しに伴い減収・減益

- 2020年11月に実施した大型M&Aにより、新たにグループ化したJT親愛貯蓄銀行の2か月間の業績（11月-12月）を計上した結果、**2020年12月期の通期連結業績は大幅な増収とともに営業利益・経常利益の黒字化を達成。**

■ 2020年12月期 通期連結業績

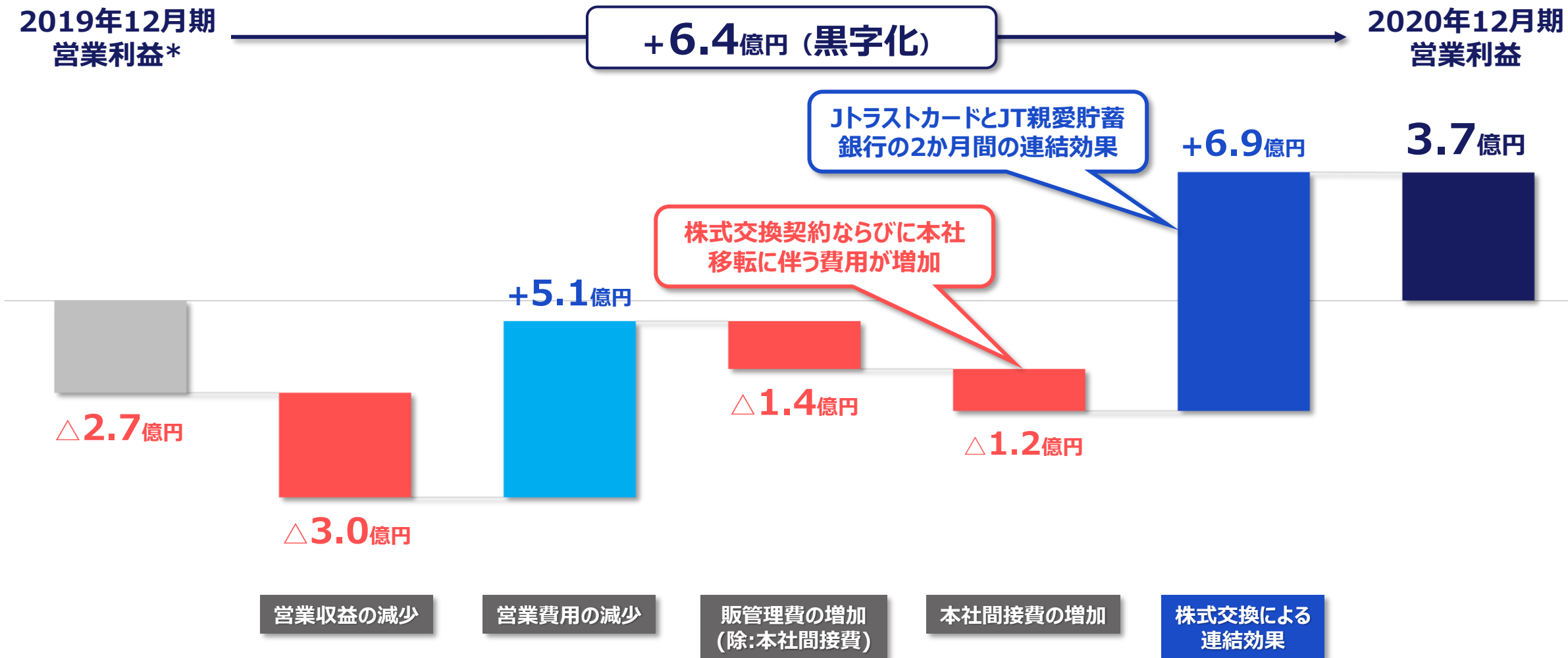
	2019年12月期*1*2	2020年12月期	前期比
営業収益	8.2億円	38.7億円	+368%
営業利益	△2.7億円	3.7億円	黒字化
経常利益	△2.4億円	3.5億円	黒字化
当期純利益	△3.0億円	△0.8億円	赤字幅縮小
純資産	21.2億円	241.7億円	+1,038%
総資産	30.0億円	2,123.6億円	+6,963%

*1：決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

*2：勘定科目の見直しに伴い、2019年12月期の実績について一部科目間での組み替えを実施

営業利益の増減分析（前期比）

- 2020年12月期は**連結効果**により、**営業利益は6.4億円増の黒字化**にて着地。
- 本社間接費については、株式交換契約の締結ならびに本社移転に伴い増加。



*決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

参考) 連結業績の損益状況

(為替レート：1ウォン = 0.0944円/2020年11月-12月期中平均)

単位：億円

		2019年12月期*1*2	2020年12月期	前期比	
連結業績	営業収益	8.27	38.74	+30.46	
	営業費用	6.65	19.01	+12.36	
	営業総利益	1.62	19.72	+18.10	
	販売費及び一般管理費	4.33	15.97	+11.64	
	営業利益	△2.70	3.75	+6.46	
	経常利益	△2.48	3.58	+6.07	
	親会社に帰属する当期純利益	△3.03	△0.82	+2.21	
	1株あたりの当期純利益 (円)	△8.68	△1.61	+7.06	
セグメント別の業績	Fintech事業	営業収益	5.47	36.01	+30.54
		営業利益	△1.65	6.23	+7.89
	ITソリューション事業	営業収益	2.25	2.20	△0.04
		営業利益	0.59	0.42	△0.16
	その他	営業収益	0.55	0.52	△0.03
		営業利益	0.50	0.47	△0.03

*1：決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

*2：勘定科目の見直しに伴い、2019年12月期の実績について一部科目間での組み替えを実施

参考) バランスシートの状況

(為替レート：1ウォン = 0.0952円(純資産等を除く) / 2020年12月末日時点)

単位：億円

		2019年12月期*	2020年12月期	前期比
資産の部	流動資産	22.4	2,076.8	+2,054.4
	現金及び預金	10.2	188.4	+178.1
	営業貸付金	12.6	1,774.4	+1,761.7
	その他(含：貸倒引当金)	△0.5	113.9	+114.4
	固定資産	7.6	46.8	+39.1
	総資産合計	30.0	2,123.6	+2,093.6
負債・純資産の部	負債	8.8	1,881.8	+1,873.0
	流動負債	6.8	1,858.1	+1,851.3
	銀行業における預金	0	1,777.1	+1,777.1
	匿名組合預り金	5.6	12.4	+6.7
	その他	1.1	68.5	+67.3
	固定負債	2.0	23.7	+21.7
	純資産	21.2	241.7	+220.5
	負債・純資産合計	30.0	2,123.6	+2,093.6

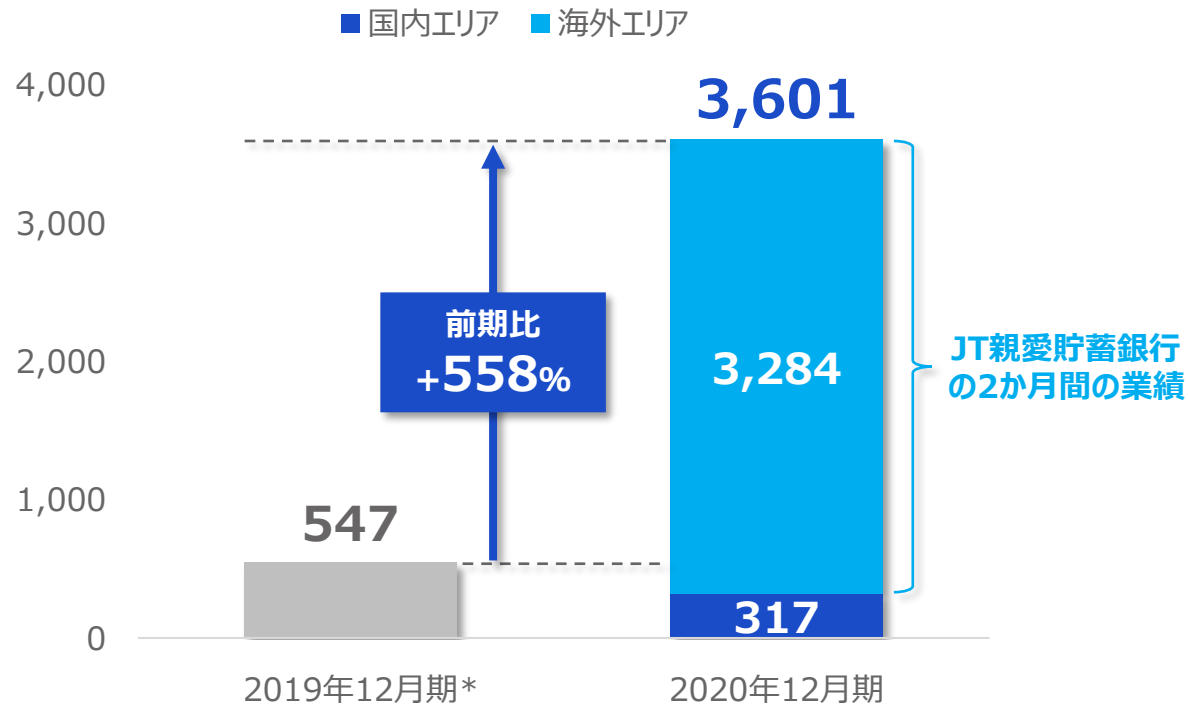
*勘定科目の見直しに伴い、2019年12月期の実績について一部科目間での組み替えを実施

3. セグメント別の事業状況

- 韓国国内において貯蓄銀行業を展開しているJT親愛貯蓄銀行（海外エリア）の2か月間の業績（営業収益3,284百万円、営業利益702百万円）を計上したことにより、営業収益は3,601百万円（前期比：3,054百万円増）と大幅増収・営業利益の黒字化を達成。

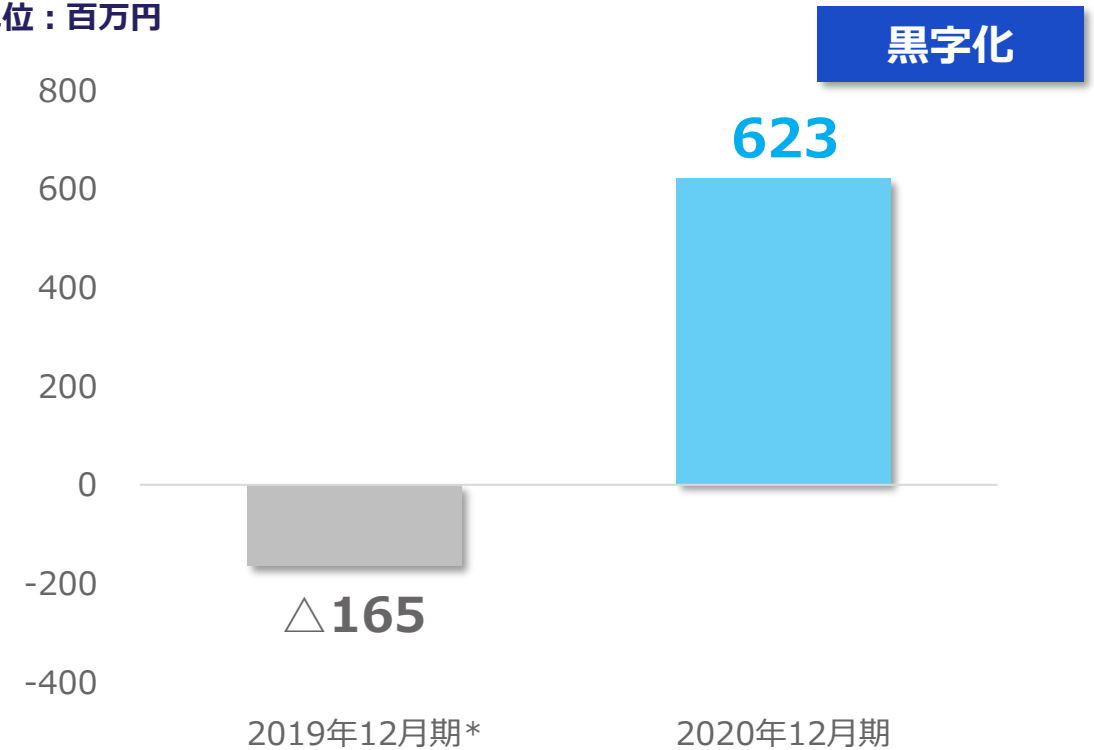
営業収益

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



*決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

- 業務提携先の株式会社日本保証とのタイアップ商品である「日本保証 保証付きファンド」を中心に、投資型クラウドファンディングサイト「SAMURAI FUND」における年間募集額が約31億円と前期と比べ大幅に増加。
- Jトラストカードでは、2020年に発行した新たなクレジットカードの利用者と取扱額の拡大に向け、国内外での積極的なプロモーションを実施。

■ 投資型クラウドファンディングサイト「SAMURAI FUND」



日本保証 保証付きファンド
を中心に商品を展開

< 年間募集額* >

31億円

(前期比: +420%)



■ Jトラストグローバルカード



在留外国人向け
(2020年2月発行)

現地法人との
タイアップ・
SNS広告を実施

■ Jトラストマスターカード (デポジット型)



国内個人向け
(2020年8月発行)

動画広告・
リスティング広告
を企画中

保証付きファンドを中心に年間募集額が大幅に拡大

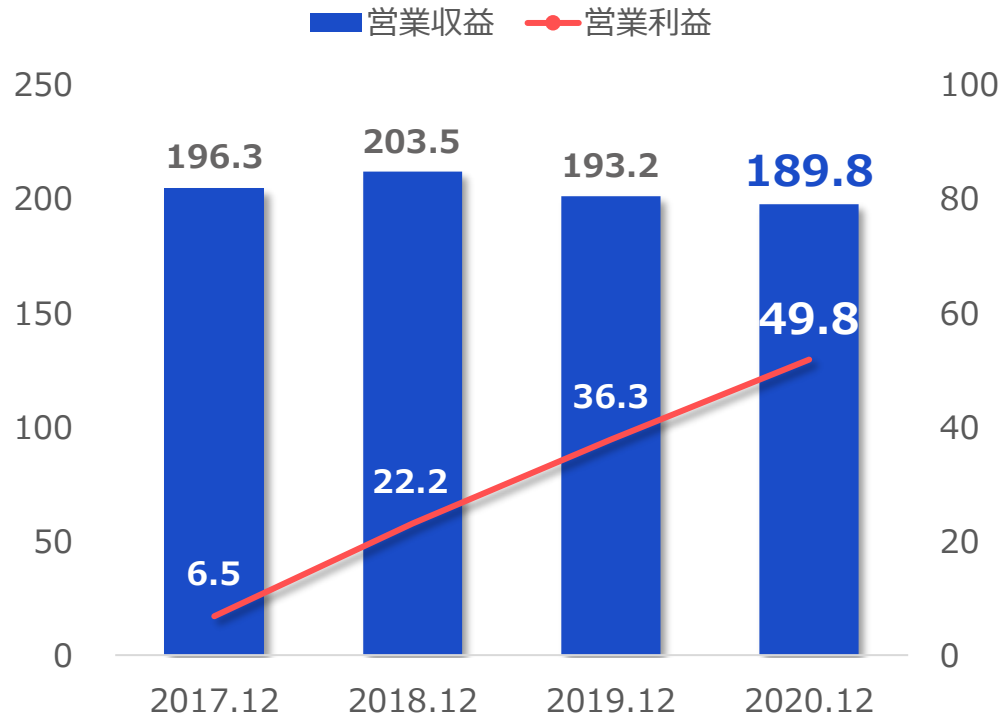
幅広い利用者をターゲットとしたクレジットカードサービス

*運用開始基準での実績。なお、決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

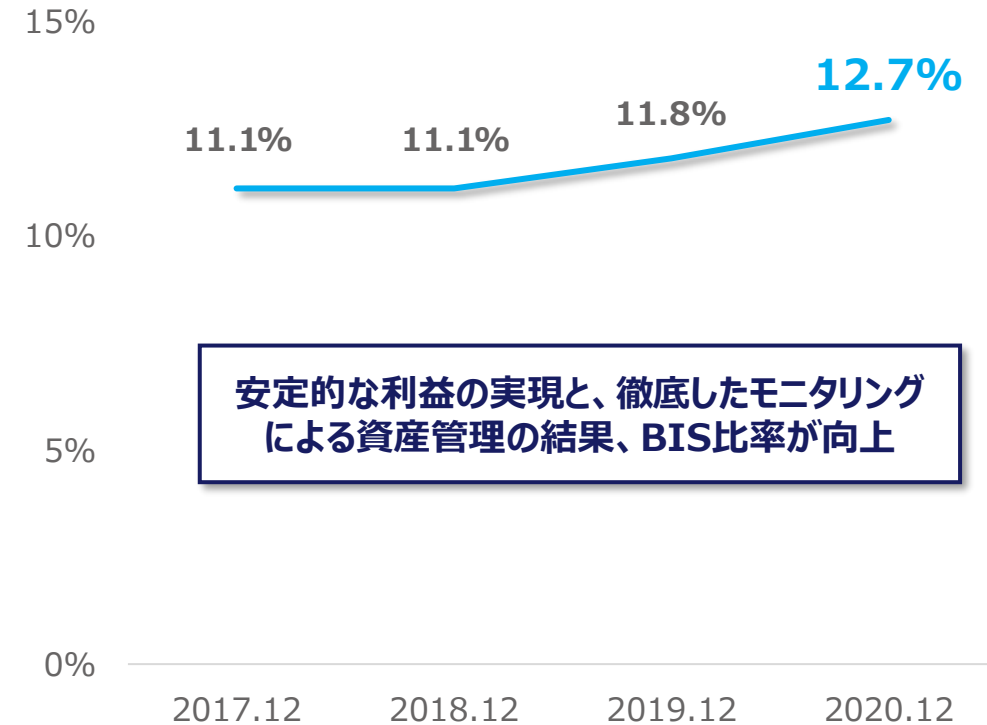
- 徹底した顧客分析による優良顧客への貸付や積極的なシステム開発・導入による効率的な経営活動等により、**営業利益が向上**。
- 財務状況においてもBIS比率が12%を上回る等、計画的な資産管理の結果、**健全な水準を維持**。

収益推移の状況*1

単位：億円



BIS比率の推移*2



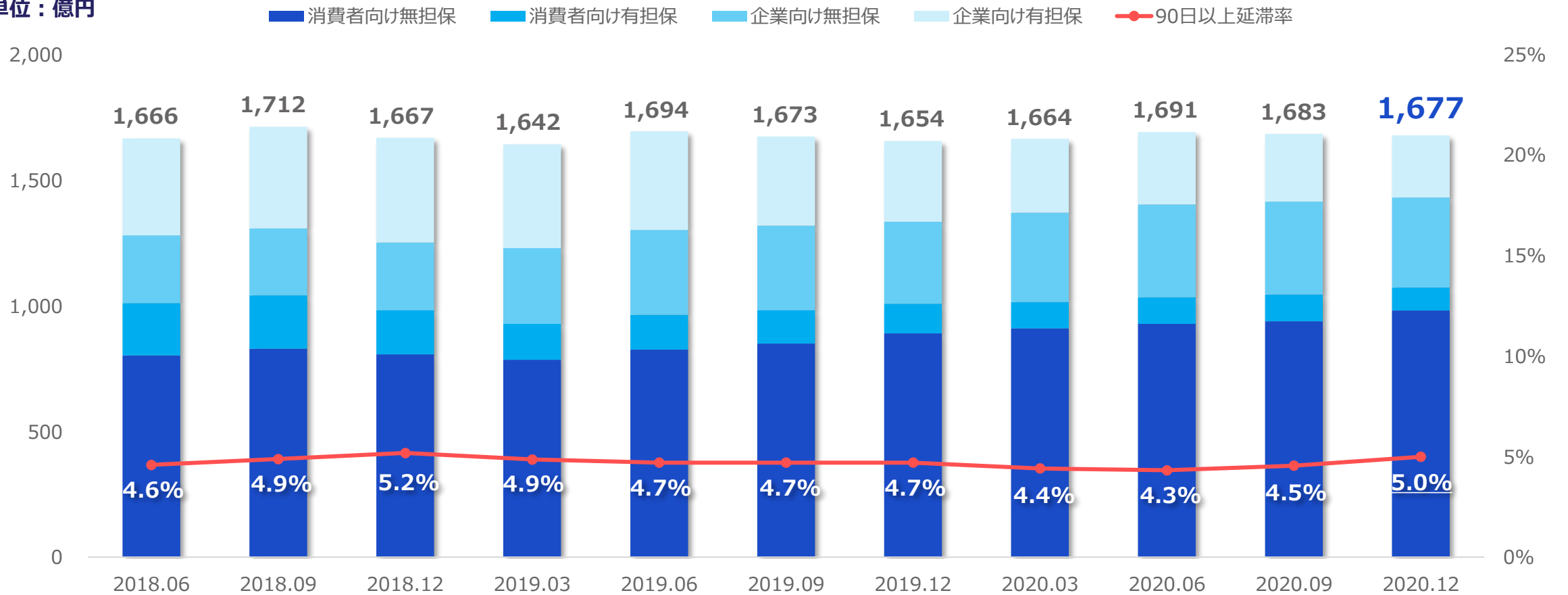
安定的な利益の実現と、徹底したモニタリングによる資産管理の結果、BIS比率が向上

*1: 韓国現地の会計基準 (KGAAP) に基づく実績 / 為替レート: 1 ウォン = 0.0907円にて換算)

*2: 銀行のリスク資産に対する自己資本の割合 / 韓国現地の会計基準 (KGAAP) に基づく実績

- 韓国政府による規制強化や新型コロナウイルス感染拡大による経済活動の停滞が懸念される環境下において、徹底した顧客分析と審査による貸付を継続した結果、**貸出資産は堅調に推移***。

単位：億円

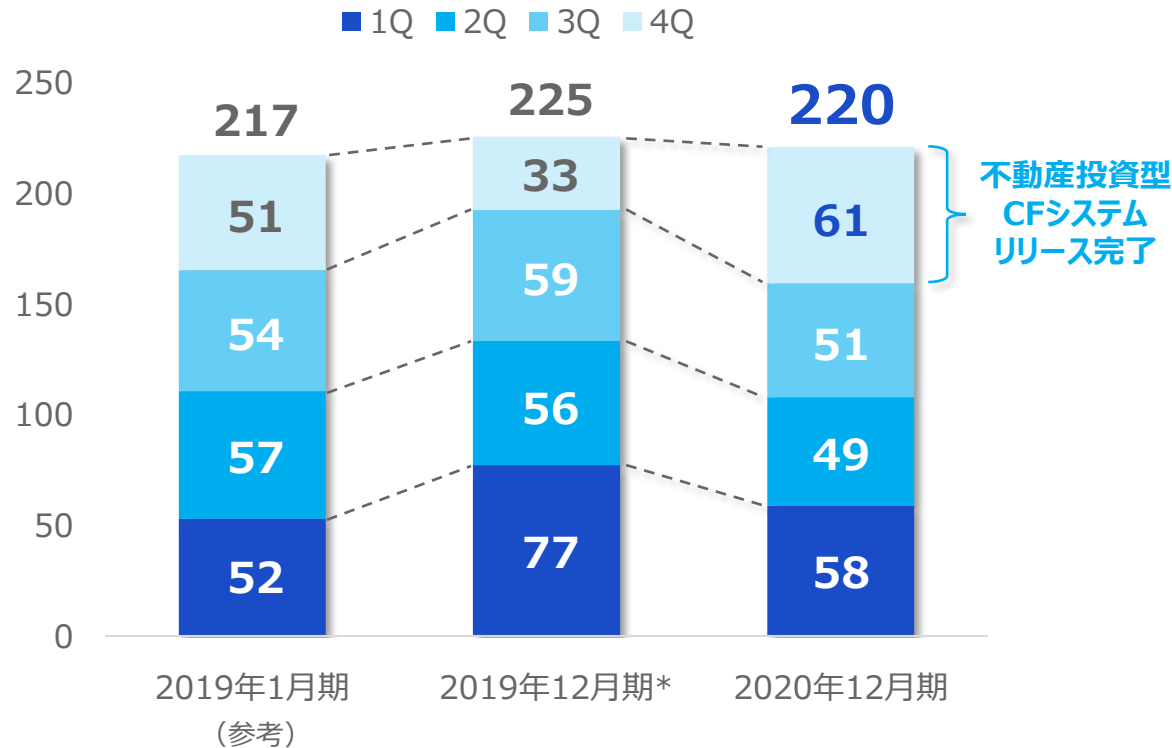


*各貸出資産の推移はIFRS基準、90日以上延滞率は韓国現地の会計基準（KGAAP）に基づく実績
為替レート：1ウォン=0.0907円にて算定

- ITソリューション事業は、営業収益220百万円（前期比：△4百万円）、営業利益42百万円（前期比：△16百万円）と前期比で減収・減益となるものの、**3か年では概ね堅調に推移**。
- 不動産投資型クラウドファンディングシステム開発のリリース完了に伴い、四半期ベースで**4Qの営業収益が増加**。

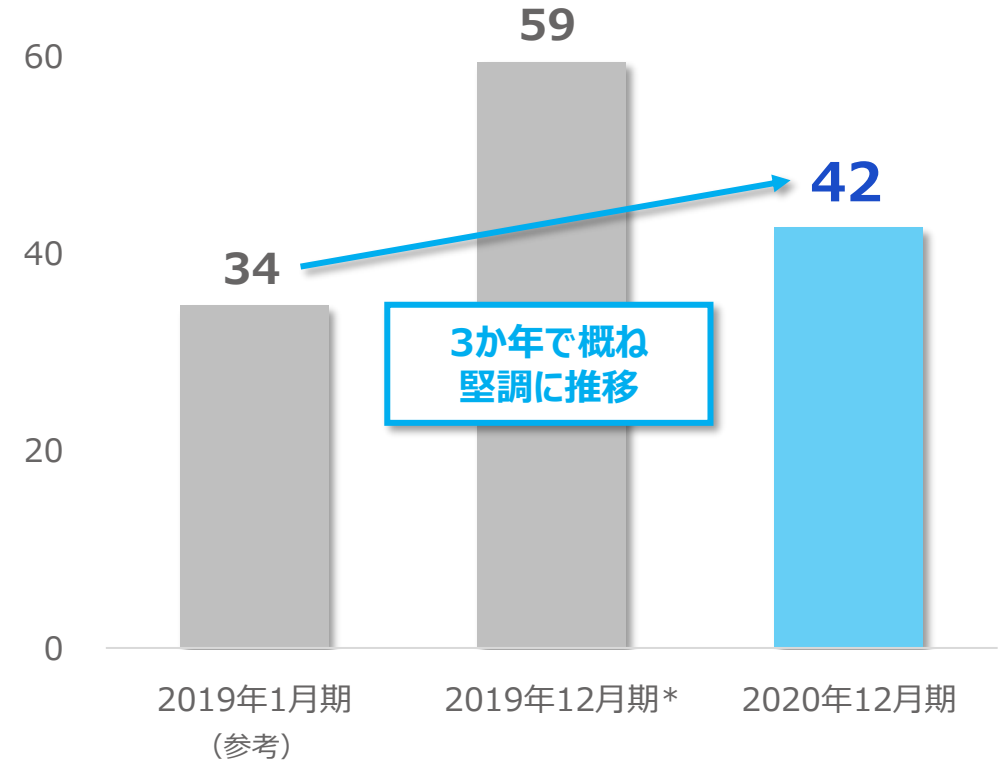
営業収益

単位：百万円



営業利益

単位：百万円

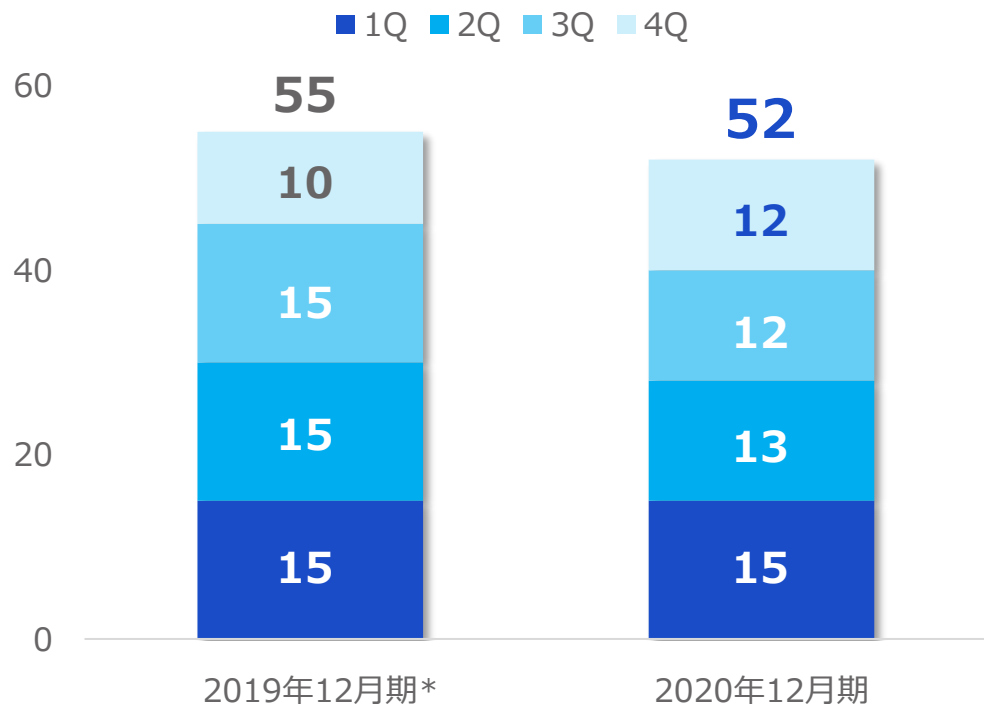


*決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

- 大阪府中央区東心斎橋の賃貸不動産については、コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い賃料減額を行ったため、営業収益52百万円（前期比：△3百万円）、営業利益47百万円（前期比：△3百万円）となり、**前期比でそれぞれ微減にて着地。**

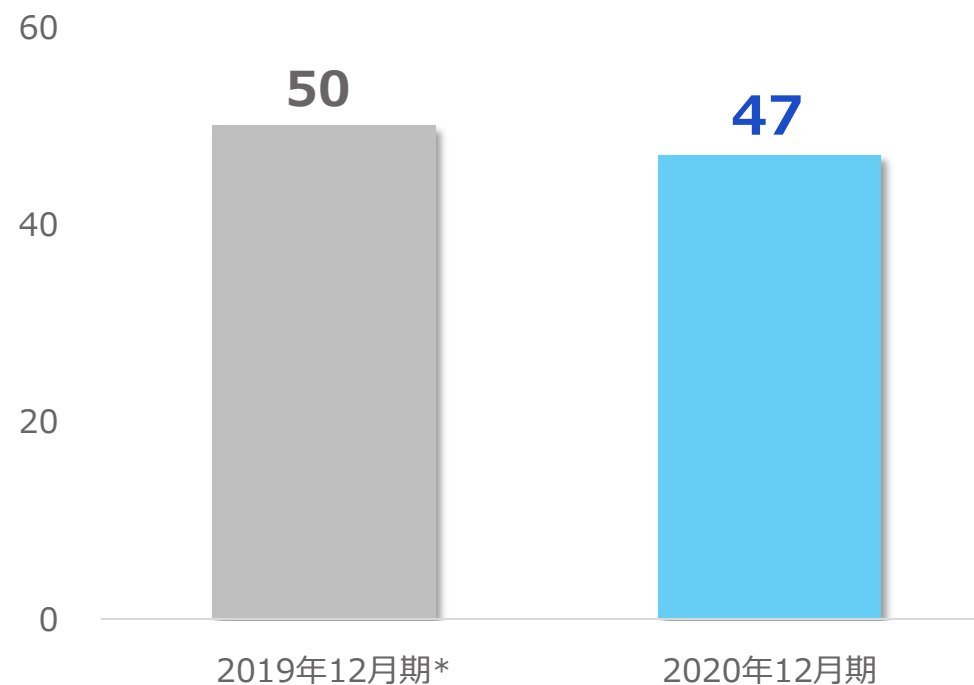
営業収益

単位：百万円



営業利益

単位：百万円

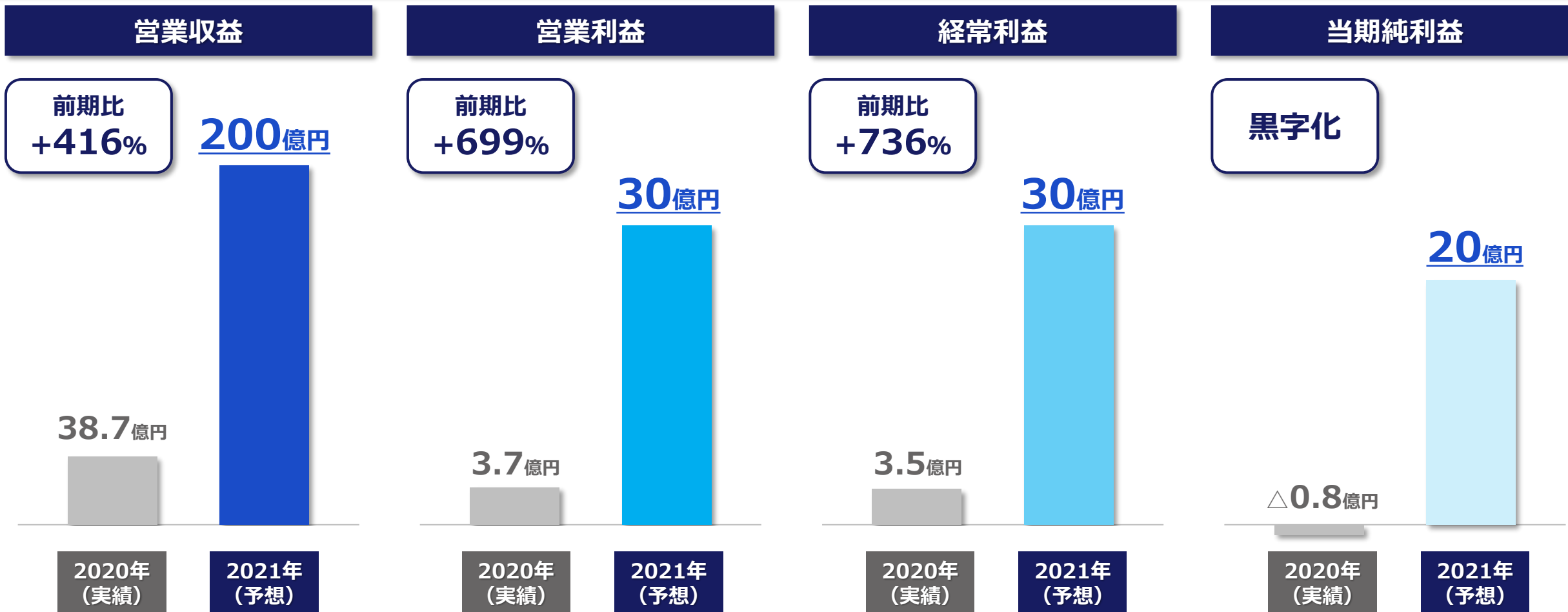


*決算期の変更に伴い、2019年12月期の実績は2月から12月までの11か月間を対象

4. 2021年12月期の業績予想

2021年12月期 通期連結業績予想

- 2021年12月期はJT親愛貯蓄銀行の業績（新型コロナウイルス感染症拡大に伴う景気低迷を起因とする信用コストの増加等を踏まえ前年比では増収・減益の予想）を通年で計上することにより、**営業収益200億円、営業利益30億円、経常利益30億円、当期純利益20億円と大幅な増収・増益**を見込む。



*為替レート：1 ウォン=0.0907円にて換算

免責事項

本資料は、当社の事業及び業界動向についての現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しております。これらの予想等に関する表明は様々なリスクや不確実性を内包するものとなります。また、掲載された情報の正確性、有用性、また適切性等について、当社は一切保証するものではなく、本資料に掲載された内容は、事前の通知なくして変更されることがあります。

本資料に関する問合せ窓口

経営管理部 IR担当

問合せページ：https://www.nbank.co.jp/ir_inquiry/